

2013年12月27日  
(一財)日本船舶技術研究協会

2013年度 船舶基準セミナー  
～IMOにおける安全対策の動向とJSTRAの戦略的対応～  
開催結果

1. 日時・場所・参加人数

- (1) 東京会場：12月16日(月) 13:30～17:00、海運クラブ 2F ホール  
海運、造船、船用工業、教育・研究機関等を中心に約60名が参加。
- (2) 博多会場：12月18日(水) 13:30～17:00、ホテルセントラザ博多 3F 花筐の間  
海運、造船、船用工業、教育・研究機関等を中心に約60名が参加。

2. 講演概要

(1) IMOにおける安全対策の動向

講演者：国土交通省 海事局 安全政策課 船舶安全基準室

室長 田淵 一浩 様(東京会場) / 専門官 貴島 高啓 様(博多会場)

概要：国際海事機関(IMO)の概要及び我が国の基本的な対応について説明があり、加えて、旅客船の安全対策、目標指向型基準、損傷時・非損傷時復原性、GMDSS近代化計画、e-Navigation戦略実施計画、防火・救命要件等の主な安全対策テーマについて後の講演に繋がるIMO審議動向の概要説明がありました。

(2) (一財)日本船舶技術研究協会の調査研究事業とIMO対応

講演者：(一財)日本船舶技術研究協会 基準・規格グループ

主任研究員 兼 基準ユニット長 浦野 靖弘

概要：船技協の事業実施体制とIMOの基準審議における船技協の役割・対応について説明し、2013年度の船技協IMO対応調査研究プロジェクトの全体像(安全対策以外の分野も含む)と2014年度に立ち上げる予定のe-Navigation戦略の実施、GMDSS見直し・近代化に関する新プロジェクトについて概要を説明致しました。

(3) e-Navigation戦略の実施

講演者：独立行政法人 海上技術安全研究所 運航・物流系

運航解析技術研究グループ長 福戸 淳司 様

概要：e-Navigation戦略に関するこれまでのIMO審議動向について、e-Navigationの定義、目的等の基本的なコンセプトからe-Navigation戦略実施計画の策定過程を交えて概要説明がありました。また、e-Navigationの実現に向けた情報通信・共有技術の活用(共通データフォーマット及びクラウドシステムの開発、陸上サービスとの連携など)及びテストベッドの推進について世界各国及び我が国の関連研究開発プロジェクトを具体例として採り上げて説明されました。

(4) GMDSSの見直し・25年間の技術進展の利用

講演者：一般財団法人 日本舶用品検定協会 調査研究部 専任部長

国立大学法人 横浜国立大学 総合的海事教育研究センター  
客員教授 吉田 公一 様

概要：現行の Global Maritime Distress and Safety System (GMDSS) について、システムを構成する基本的な機能・構成要素について概要説明があり、現在 IMO を中心として見直しが進められている背景に加え、衛星を利用した AIS（船舶自動識別装置）、VHF Data Exchange System (VDES) 等の情報通信技術など今後新たに GMDSS に組み込まれることが予想される技術について情報提供がありました。また、関連する IMO 会議での最新の審議動向についても、主な論点や今後のスケジュールを交えて概要説明がありました。

#### (5) 火災安全・救命設備及び旅客船安全

講演者：独立行政法人 海上技術安全研究所

国際連携センター長 太田 進 様

概要：船舶の防火・救命要件を定める SOLAS 条約及び関連文書について、条約等の改正手続きを交えて概要説明があり、特に、最近の火災安全関係規則及び救命設備関係規則の改正状況について説明がありました。また、2012 年 1 月にイタリアで発生したコスタ・コンコルディア号座礁事故を契機として IMO で進められている旅客船安全対策の審議動向について最新の情報が提供されました。

#### (6) 第 2 世代非損傷時復原性基準の策定

講演者：国立大学法人 大阪大学 大学院 工学研究科

地球総合工学専攻 船舶海洋工学部門 准教授 梅田 直哉 様

概要：IMO で検討が進められている第 2 世代非損傷時復原性基準について、模型による水槽試験の動画を交えながら、基本となる 5 つの動的危険モード（パラメトリック横揺れ、ブローチング等）が紹介され、物理則に基づく各々の基準の考え方及び策定過程について説明がありました。

### 3. アンケートで寄せられたご意見の概要

- 各講演とも非常に分かりやすくポイントがまとめられており、充実した内容であったとのことに加え、IMO における最新の審議動向について知ることができ有益だったとのことご意見が多数寄せられました。
- 今後希望する基準セミナーのトピックとして、シップリサイクル、船体付着生物管理、大気汚染防止、温室効果ガス（GHG）削減といった環境関連の話題を希望するご意見が多く寄せられました。また、今回トピックとして取り上げました復原性基準については、引き続き最新の審議動向について情報提供して欲しいといったご意見も複数寄せられました。

### 4. 会場・講演の様子



東京会場の様子



博多会場の様子



愛川理事長 開会挨拶（東京・博多）



加藤安全政策課長 来賓ご挨拶（東京）



久保田九州運輸局次長 来賓ご挨拶（博多）



海事局安全政策課 田淵室長 ご講演（東京）



海事局安全政策課 貴島専門官 ご講演（博多）



浦野基準ユニット長 講演（東京・博多）



海技研 福戸氏 ご講演（東京・博多）



HK・横国大 吉田公一氏 ご講演（東京・博多）



海技研 太田氏 ご講演（東京・博多）



大阪大学 梅田先生 ご講演（東京・博多）



塩崎常務 閉会挨拶（東京）



田中常務 閉会挨拶（博多）

以上